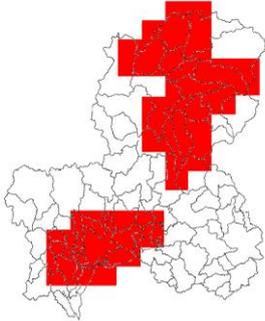


ツルフジバカマ		<i>Vicia amoena</i> Fisch. ex Ser.	準絶滅危惧
			マメ科
選定理由	草地環境の減少などにより、生育地の減少が著しい。		写真(清水英彦) 
形態の特徴	茎はつる状で長さ200cmに達する。葉は偶数羽状複葉で、先端は巻きひげになる。小葉は互生し、狭卵形～長楕円形で、乾くと紅褐色を帯びる。花は紅紫色。総状花序は多数の花をつける。豆果は狭楕円形で扁平。		
生態的特徴	マメ科の多年草。花期は8-10月。山野の草地や道端に生える。水田わきの谷戸(やと)では、定期的の下草刈りが行われ、本種の生育に適した草地環境が維持されてきた。また、用水路わきや林道わきなどの明るい草地に生育する。		
分布状況	北海道から九州に分布し、中国大陸からシベリアに分布する。岐阜県では、県北部と県南西部、県南中部の限られたところにのみ見られる。		
減少要因	農業従事者の減少によって、耕作地やその周辺の草地環境が減少していること。林道わきなどに生育するため、道路拡張などによる環境の改変。さらに、花が美しいため園芸植物として採取される恐れもある。		
保全対策	生育地の適度な草刈りや、周辺の樹木の伐採など。道路拡張などによる環境の改変で、自生地が消滅するおそれがあり、工事の際には特に慎重を期する。		
特記事項			
参考文献	原色日本植物図鑑・草本編Ⅱ 保育社 1961 日本の野生植物草本Ⅱ 離弁花類 平凡社 1982 滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県 2005		

文責:福岡義洋